

【気になる話題 ～腸管出血性大腸菌感染症の予防のために～】

1. 腸管出血性大腸菌感染症とは

大腸菌はヒトや家畜の腸管に存在する細菌で、ヒトに下痢など消化器症状を起こすものが病原性大腸菌です。その中で、ベロ毒素を産生するものを腸管出血性大腸菌と呼びます。感染すると、2日から5日の潜伏期間の後、激しい腹痛と頻回の水様便、続いて血便などが見られます。発症者の約5%が溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症（痙攣や意識障害）などの合併症を起こし、死亡することもあります。腸管出血性大腸菌には、1996年に堺市で発生した集団感染事例で有名になったO（オー）157やO26、O111、O128などがあります。

腸管出血性大腸菌感染症は、感染症法の三類感染症に分類され、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届ける事が定められています。また、学校保健安全法では第三種感染症に指定されており、「病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで」を出席停止の期間の基準としています。

2. 食中毒・感染症の原因・感染経路

腸管出血性大腸菌は、わずか100個程度の摂取で発症する可能性があります。また、子供や高齢者は重症化しやすいと言われています。

感染形式	主な原因・感染経路
食中毒	飲料水（井戸水） 生の牛肉・レバーおよび加熱不十分な食肉 食肉等から二次汚染した食品（サラダ類）
感染症	患者の介護者の不十分な手洗いによる感染 家庭のトイレや風呂を介した感染 温泉・プールを介した感染

3. 平成22年度の奈良県における届出数

数 総	内 訳
56件	O157：35件、O26：15件、O145：4件、不明：2件

4. 予防のポイント

- 肉は生食を避け、十分に加熱（75℃、1分以上）しましょう
- 生肉を扱った調理器具はすぐに洗剤で洗い、熱湯等で消毒しましょう
- トイレの後は、石鹸と流水で十分に手洗いをしましょう
- 患者の介護をする人は、下痢便に直接触れないよう手袋を使い、処理後も充分手を洗いましょう
- 下痢症状のあるときは、入浴の順番を最後にしてシャワーを使いましょう

（感染症情報センター 記）